

多雪地域におけるスギコンテナ苗の初期成長特性

山形県森林研究研修センター

研究のねらい

低コスト造林を実現するため、マルチキャビティコンテナ（以下「コンテナ」）苗の活用が注目されている（写真1）。コンテナ苗は伐採から植付けまでを一体的に行う一貫造林に向いており、植栽・育林コストが軽減されると期待されている。しかし、多雪地帯における植栽後の成長特性の解明は十分に行われていないため、植栽試験地の結果から従来苗との比較を行った。

研究の成果

- ① コンテナ苗は積雪に伴う折れや根抜けなどの被害が懸念されたが、これらの被害はほとんど発生せず、生存率も従来苗と同等に高い。
- ② 植栽後の樹高成長については、従来苗と比べて同程度かやや劣る傾向がある（図1）。特にコンテナ苗の植栽翌年の成長量が従来苗よりも低い傾向があるが、成長するにつれて樹高の差は小さくなっていくと予想されるため、多雪地においてもコンテナ苗の導入は可能である。
- ③ コンテナ苗は高密度で育苗されるため初期の形状比（苗長÷根元直径）が高いが、徐々に従来苗と同じ程度に低下し、その後に樹高成長量が増加する（図2）。初期の成長差は苗の形状比によるものであり、育苗技術の改良によって改善できれば、初期成長が促進され下刈期間が短縮できる可能性がある。



写真1 コンテナ苗（左）とマルチキャビティコンテナ（右）

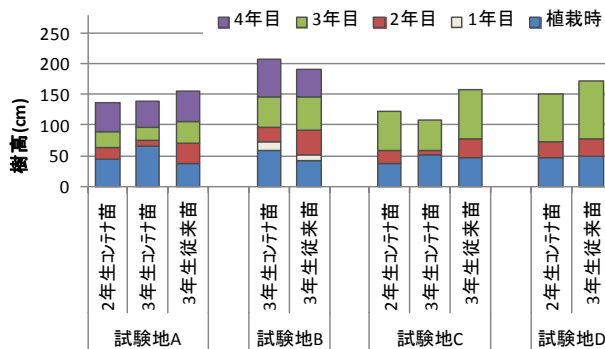


図1 コンテナ苗と従来苗の樹高成長の比較

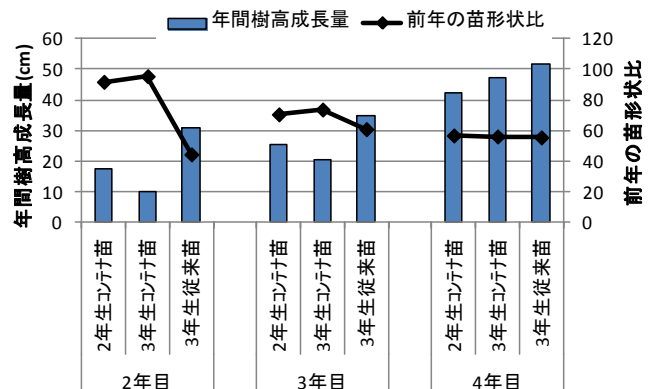


図2 苗形状比と樹高成長の推移（試験地A）